



2025年9月8～9日に函館水産試験場試験調査船「金星丸」で実施した噴火湾周辺海域の水温・塩分・溶存酸素の観測結果をお知らせします。
QRコードからもアクセスできます→

- ・海面付近の水温は24℃前後、30m層以深は20℃未満です。
- ・暖流系水は湾内全域の中層に流入しています。
- ・湾内海底の溶存酸素は昨年同時期と比べると高くなっています。

【水温の鉛直分布】

噴火湾内の深度5mの水温は23～24℃でした（図1）。噴火湾周辺の深度10～30mの水温は15～24℃台で平年より高かった一方、前年と比べると低くなっていました。

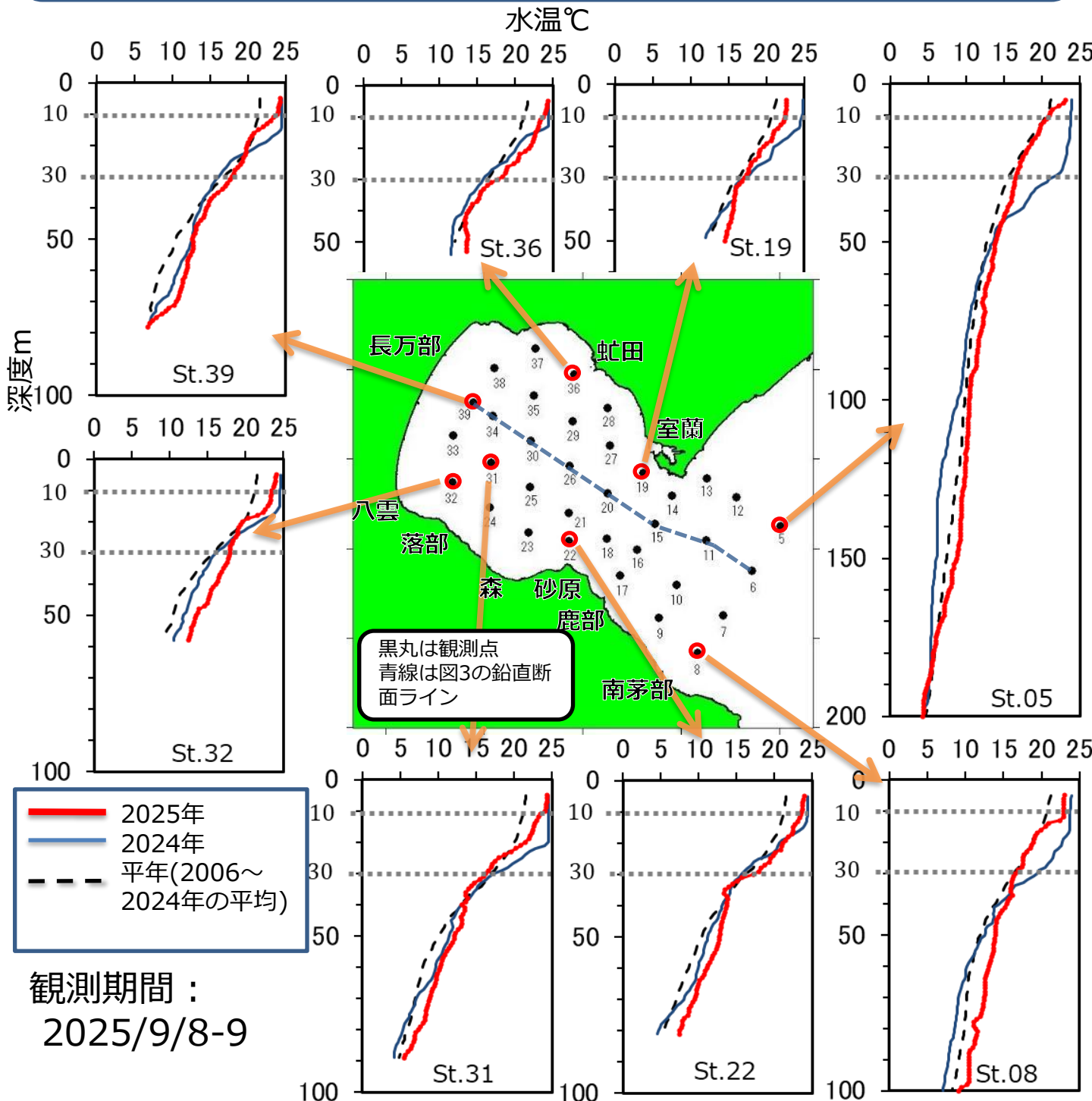


図1 噴火湾各地先の水温の鉛直分布

【水温、塩分の水平分布】

噴火湾内深度10mの水温は23~24℃台で、胆振寄りの沿岸で高くなっていました（図2A）。深度10mの塩分は湾内で33.0前後、湾外では33.2以上でした（図2B）。深度30mでは水温15~19℃台（図2C）、塩分33.6以上（図2D）と、湾外から湾内にかけて暖流系水（水温6℃以上、塩分33.6以上）に覆われていました。前年同時期（図2E, F）と比べると今回の水深30mの水温は湾外で3~5℃程度低く、塩分は湾内外で高くなっています。したがって、**今年は昨年同時期と比べ暖流系水が湾内に多く流入している**と考えられます。

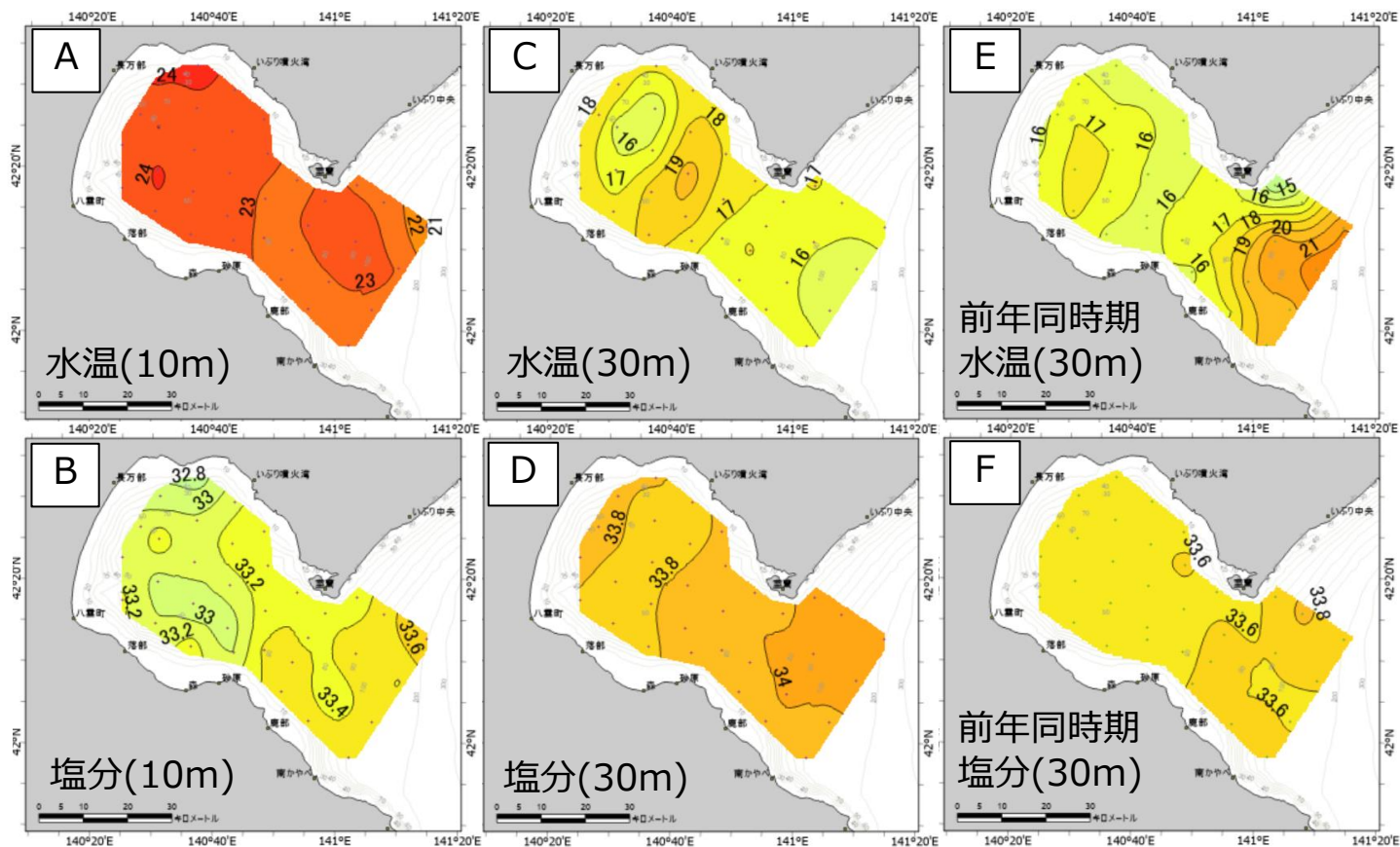


図2 A:水温(10m), B:塩分(10m), C:水温(30m), D:塩分(30m), E:前年同時期の水温 (30m) , F: 前年同時期の水温 (30m)

【海底上5mの溶存酸素の水平分布】

噴火湾内海底上5mにおける溶存酸素は2.1~5.8ml/Lで、渡島側の湾奥で低くなっていました（図3右）。前回8月の値と比べると低くなっていましたが、**前年同時期と比べると高い値となっています**（図3中、左）。

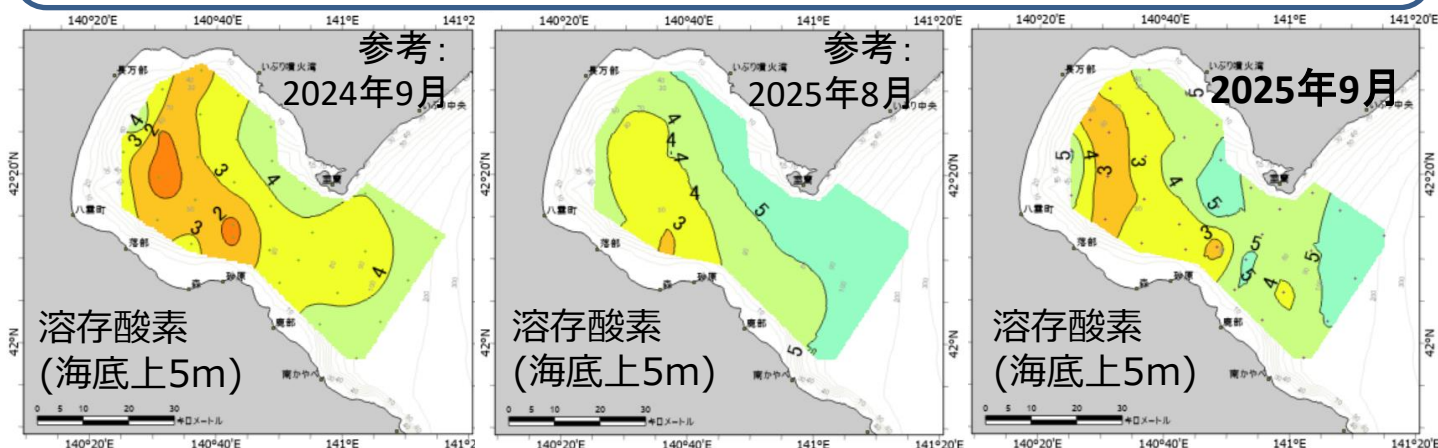


図3 海底上5mにおける溶存酸素の分布（左：2024年9月、中：2025年8月、右：2025年9月）

【水温，塩分，溶存酸素の鉛直断面分布】

噴火湾内表層は水温22～24℃台となっており，20℃の水深帯は水深20mに達しています（図4）。また，水深20m以深の水温も前回調査と比べ昇温しています。

塩分は湾全体の中層において33.6以上と，前回調査と比べ高くなっています。**暖流系水**（水温6℃以上，塩分33.6以上）は前回調査時点で湾外～湾口部に分布していましたが，今回にかけて湾奥まで流入が進み，**水深20～70mを満たしています**。

海底付近の溶存酸素は湾内の水深80m以深で3mL/Lを下回っていますが，今後暖流系水の流入に伴う混合や海面からの冷却が進むことで，上昇に転じると見込まれます。

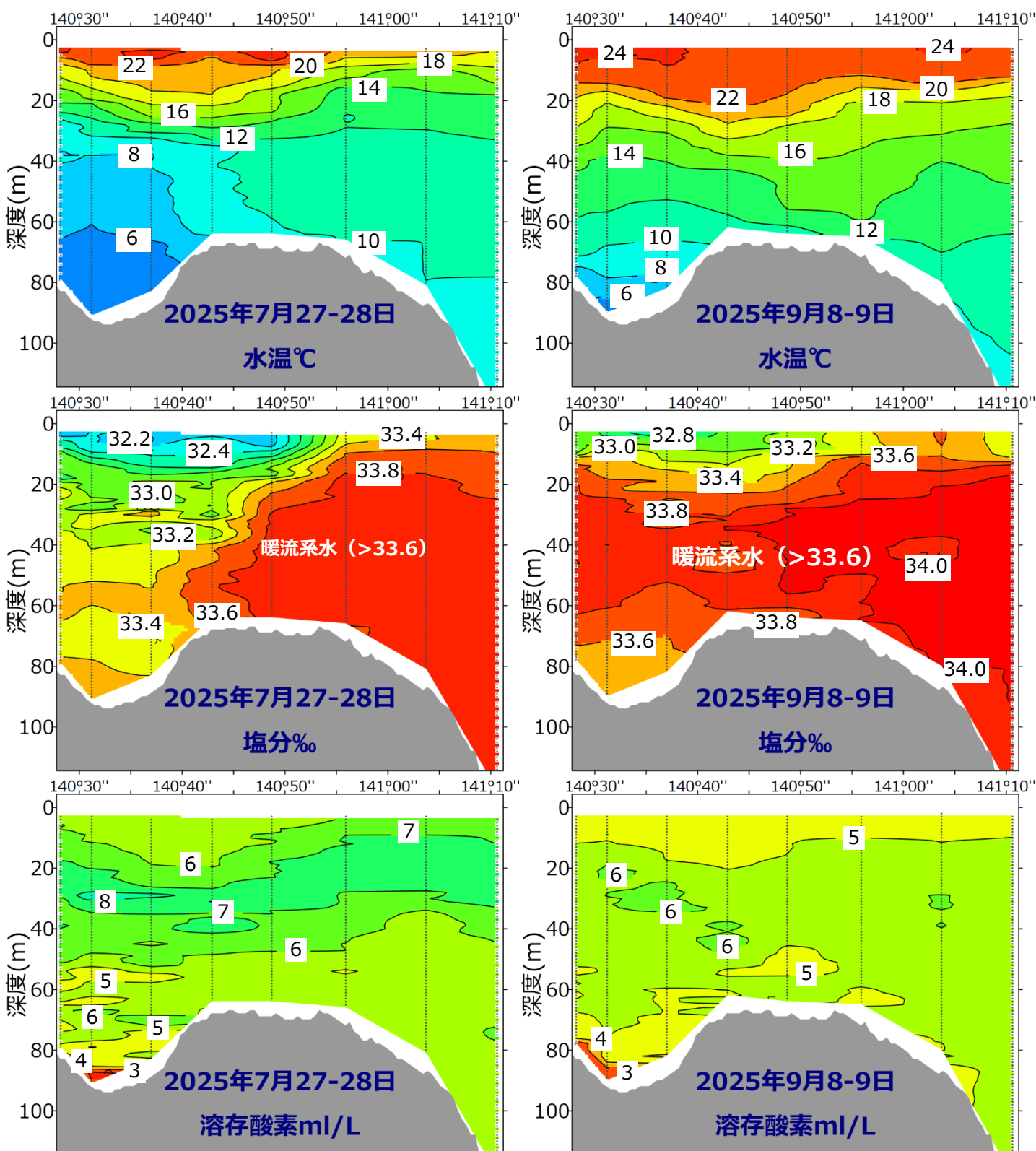


図4 水温・塩分・溶存酸素の鉛直断面図（左：前回の結果，右：今回の結果）

※図中破線は観測点，鉛直断面の位置は図1の青破線を参照